

宇都宮市立平石北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の本校の肯定的回答の割合は97.2%である。また、「家で学校の授業の予習をしている」の肯定的割合は66.7%、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的割合は72.2%で、いずれも宇都宮市の肯定的割合を上回っている。さらに、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答の割合は、市の平均を11.3ポイント上回っている。これらのことから、おおむね家庭学習の習慣が身に付いているといえる。

今後さらに児童の家庭学習の取り組みを認めていくとともに、家庭学習習慣については、個人差も見られるようなので学級懇談会等の機会を活用し、家庭との連携も図っていく。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」では15.2ポイント、「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳を使って調べている」では15.1ポイント、宇都宮市の肯定的回答の割合を下回っている。学習中に分からないときには自分の力で解決できるよう、国語辞典や漢字辞典の使い方、図書やインターネットの利用法、図や表、地図の活用の仕方などを授業を通して指導し、自分で調べる方法を身に付けられるようにする。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」では9ポイント、「自分には、よいところがあると思う」では8.8ポイント、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」では12.5ポイント、宇都宮市の肯定的回答の割合を下回っている。授業中や学校生活の様々な場面で、また高学年として、多くの仕事をする中で達成感や充実感が味わえるように一つ一つの頑張りを認め、自己有用感を高められるようにしていく。

宇都宮市立平石北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
めあての提示と振り返る場の設定	授業で目標を示したり、授業の最後に振り返りの時間を設けたりする。	「授業では、授業の目標が示されているか」に対する本校の肯定割合は4年生が86.1%、5年生が91.7%で県や市の平均を上回っている。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」に対する本校の肯定的割合は、4年生が69.4%、5年生が72.2%で県や市の平均とほぼ同じである。
言語活動の充実	自分の考えを発表したり、友達の前で考えに触れたりして、互いに練り合い高め合う場を設定する。	「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に対する肯定的回答の割合は、4年生で県や市の平均を上回り、5年生では、県や市の平均とほぼ同じである。
学校図書館教育の推進	図書館利用指導計画のもと、授業中の図書室の活用を推進する。また、読書タイムや読書週間の充実を図り、司書や読み聞かせボランティアとの連携を図る。	「本やインターネット等を利用して、勉強に関する情報を得ている」に対する本校の肯定的回答の割合は、4年生が51.4%で、県や市の平均を上回り、5年生が41.7%で、下回っている。「歴史上の人物やできごとを扱っているテレビを見たり、本を読んだりするのは好きだ」の肯定的回答は、4年生、5年生共に県や市の平均を上回っている。一方、「自然や宇宙など科学の内容を扱っているテレビを見たり、本を読んだりするのは、好きだ」の肯定的回答の割合は、県や市の平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語において「書く能力」の観点で県や市の平均より下回っている。また「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」に対する肯定的回答の割合は、4年生で県や市の平均を下回っている。	自分の考えを書く活動の充実	各教科の授業の中で、自分の考えを書く活動を意図的に位置づける。 学校生活の様々な場面での振り返りを短い文で書かせる等文章を書くことに慣れるようにする。